

第12回
全国大学まちづくり
政策フォーラムin京田辺
報告書



「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」実行委員会

表紙制作：同志社女子大学 情報メディア学科
木田枝里 旗谷美奈子 三浦志緒理

ごあいさつ



「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」実行委員長
真山 達志（同志社大学政策学部教授）

京田辺市には同志社大学京田辺キャンパスがあり、京田辺市と同志社大学とはこれまでから連携して地域の活性化に取り組んできました。このような大学との連携をさらに発展させ強固なものにするために、両者は2006年11月に『全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺』を設置しました。本フォーラムは、「全国の大学生や大学院生が京田辺に集い、政策を多角的に議論するとともに、政策の実施、評価の一連の政策過程を射程に入れた『まちづくり政策議論』の必要性を発信し、全国の自治体の活性化に寄与すること」を目的としています。そして、最初のフォーラムを2007年に開催し、その後も多くの皆様のご理解とご協力を得て、今年は第12回を数えるに至りました。

少子高齢化、東京一極集中、格差社会の拡大をいかに食い止めるか、旧来のコミュニティの衰退に対してどの様に対応するか、地域経済の停滞をどのように解消するかなど、地域が抱える課題は多種多様でありかつ解決が困難なものばかりです。このような課題について、これまで活発な政策づくり活動が展開され、京田辺市をフィールドに大学生や大学院生が地元京田辺市の多くの皆様のご協力を得て調査・研究を進め、問題を掘り下げ、課題を明確化した上で、具体的な解決策を提案することに務めてきました。

回を追うごとに内容が深化し、次々に新しくユニークな提案が生み出されてきました。そして、学生や大学院生の研究・学習を深めることにつながるだけでなく、京田辺市をはじめ多くの地域の問題解決に貢献してきたものと自負しています。

お陰様で、「第12回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」も成功裏に終わることができました。全国から9大学17チームの大学生・大学院生の皆さんに参加していただき、多くの意欲的な研究成果が発表されました。本報告書は、その成果を全国のまちづくりに関わる市民、学生、行政、研究者等にお知らせするとともに、さまざまなご意見やご批判をいただくためにまとめたものです。まちづくりの実践者や研究者の何らかのご参考になることができれば望外の幸せです。

最後になりましたが、第12回フォーラムの開催にあたり、趣旨にご賛同をいただいた参加大学の先生、学生の皆さん、事務局業務だけでなく市内調査等のお世話をしていた京田辺市職員の皆さん、そして調査や学習のフィールドを提供して下さった京田辺市民の皆さんに対して、心から御礼申し上げます。

2018年4月

「第12回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」開催要項

1 目的

全国の大学生や大学院生が京田辺市に集い、政策を多角的に議論するとともに政策の実施プログラムを作成し評価する、一連の政策過程を射程に入れた「まちづくり政策議論」の必要性を発信し、京田辺市を始め、全国の自治体の活性化に寄与することを目的とする。

2 主催

「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」実行委員会

3 共催

京田辺市 同志社大学

4 開催日

平成30年2月25日（日）から2月27日（火）までの3日間

5 開催会場

京田辺市内

同志社大学京田辺キャンパス

6 内容

（1）政策提言テーマ

次の4つのテーマから1つを選択して政策提言調査研究を行うこと。

- ・「若い世代が起業しやすい環境づくりについて」
- ・「市民への効果的な行政PRについて」
- ・「みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて」
- ・「健康増進に着目したまちづくりについて」

（2）政策提言発表

参加チームごとに政策提言を発表する発表会を行う。

（3）その他

開催スケジュールは別途日程表にて定める。

7 参加者

- (1) 全国の大学生・大学院生
- (2) 参加に関することは別途参加者募集要項にて定める。

8 周知方法

- (1) 広報京たなべへの掲載
- (2) 本市ホームページへの掲載
- (3) 市の公共施設にチラシを配架
- (4) ポータルサイト掲示板に案内掲載

9 その他

優秀な政策提言を行ったチームには、賞を授与する。

10 問い合わせ先

京田辺市市民部市民参画課

〒610-0393 京田辺市田辺 80 番地

電 子 メ ー ル：seisakuforum@city.kyotanabe.lg.jp

直 通 電 話：0774-64-1314

ファックス番号：0774-64-1305

「第12回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」テーマ解説

若い世代が起業しやすい環境づくりについて

解説: 起業は新しい産業や就業機会を創出するとともに、経済成長をもたらす原動力となる。日本は創業・起業数がアメリカ等と比較して少なく、現在、「起業数の増加」を国の政策として取り組んでいる。また、全国の地方自治体においても地域特性を生かして様々な起業を誘発する事業(例:福岡市・スタートアップカフェ、島根県松江市・Ruby City MATSUE、徳島県名西郡神山町・神山バレー)を行っている。

これからの社会を支える若い世代が起業しやすい環境を作っていくことは、個人の人生の選択肢を広げる意味と持続的な経済成長を実現していく上で、大変重要となる。

そういった中で、京田辺市は、学生や転入者を中心に若い世代が比較的多く、こうした方々を対象とした起業支援の取り組み〔例:セミナーの開催、起業相談窓口設置、D・egg(起業家育成施設の設置)〕を中心に行っているが、その方々が起業しやすい環境づくりについて調査研究を進めていただきたい。

市民への効果的な行政PRについて

解説: 行政運営において、限られた財源を最大限活用しながら市民満足度の向上を図ることが重要である。そのためには、市が進める事業や実施した事業の成果について、行政が一方的に伝えるのではなく、そのサービスの対象である市民に伝わり、市民がそれを理解・反応・評価することが求められる。

これまでも、本市では、市ホームページや広報紙、フェイスブック等のSNSを用いて、双方向の情報発信の充実に努めてきたが、市民に伝わるという部分で、十分な効果を上げきれていないと考えられる。

そういったことから、市民に伝わる効果的な広報戦略について、民間企業等の戦略も参考にしながら、調査研究を進めていただきたい。

みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて

解説: 京田辺市における交通ネットワークは、市内の3つの核を中心に、鉄道とバス交通を組み合わせた利便性の高いネットワークを形成しているが、持続可能な地域公共交通システムの構築が喫緊の課題であると考えている。その背景には、バスの乗務員不足や輸送人員の減少に伴うバス事業者の経営状態悪化からバス路線網の縮退が進んでおり、市からの運行経費負担(一部)により現状路線が維持できている状況が挙げられる。

ついては、本市における交通政策上の現状や課題を踏まえた上で、地域や市民が一体となった持続可能な地域公共交通システムによるまちづくりについて、調査研究を進めていただきたい。

健康増進に着目したまちづくりについて

解説：少子高齢化・人口減少社会では、地域活力の低下及び社会保障コストの増加は避けられず、世代間扶養モデルである年金・医療・介護はいずれも持続性が低下することが必至である。

また、高齢者人口の増加に伴い、社会医療保障費の増加が予想され、さらには、人口の減少から経済規模の縮小による公共サービスのレベル低下、地域活力の低下が生じることが予想される。このような、社会的課題を克服していくためには、市民誰もが健康で生き生きと暮らせ地域で支え合うまちづくりを進める必要があり、そのためには市民の健康に対する意識を高めるための施策や、市役所組織が一体となって連携すること等が求められると考えられる。

本市では、各種健診の受診、健康づくり事業やイベント等に参加した際に、参加者にポイントを付与し、抽選で健康グッズの賞品をプレゼントする「健幸パスポート事業」の実施や、市民が四季の移ろいを感じながら、散策や健康増進のためのウォーキングを楽しめるよう、「水辺の散策路」の整備を図る等、市民の健康増進に庁内を挙げて取り組んでいるところである。

については、本市の現状と課題を踏まえた上で、健康増進に着目したまちづくりについて調査研究を進めていただきたい。

第12回 全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺 日程

下記の日程は、諸般の事情により変更となる場合があります。

日数	時 間	日 程	会 場	備 考
1 日 目	平成30年2月25日（日曜日）			
	12:00 ～ 14:00	新田辺駅からのシャトルバス(乗車自由)	乗車場所＝近鉄新田辺駅西口	バス：みどり1号、みどり2号
	14:00	全体集合	同志社大学恵道館201番教室	各自でシャトルバス又は公共交通機関等を利用
	14:00 ～ 14:10	受付	同志社大学恵道館204番教室	
	14:20 ～ 14:30	歓迎式	同志社大学恵道館201番教室	・実行委員長あいさつ ・市長あいさつ
	14:30 ～ 14:50	リーダー会議(諸注意等)	同志社大学恵道館204番教室	
	14:50 ～ 16:50	政策提言調査研究活動(自由行動)	京田辺市内、同志社ローム記念館、情報メディア館等	
	17:00 ～ 18:30	交流会	同志社ローム記念館オープンスペース	参加チーム紹介、発表順決め
2 日 目	18:40	1日目終了、解散		
	平成30年2月26日（月曜日）			
	9:30 ～ 12:00	政策提言調査研究活動(自由行動)	京田辺市内、同志社ローム記念館、情報メディア館等	各自で公共交通機関等を利用
3 日 目		昼食(各自)		昼食は各自で用意
	13:00 ～ 16:00	政策提言調査研究活動(自由行動)	京田辺市内、同志社ローム記念館、情報メディア館等	各自で公共交通機関等を利用
3 日 目	平成30年2月27日（火曜日）			
	7:30 ～ 9:00	新田辺駅からのシャトルバス(乗車自由)	乗車場所＝近鉄新田辺駅西口	バス：みどり1号、みどり2号
	9:00	全体集合	同志社大学恵道館201番教室	各自でシャトルバス又は公共交通機関等を利用
	9:10 ～ 9:20	リーダー会議(パワーポイントのデータ提出)	同志社大学恵道館204番教室	政策提言発表のデータ提出
	9:30 ～ 9:45	政策提言発表オープニング	同志社大学恵道館201番教室	・実行委員長あいさつ
	9:45 ～ 12:20	各チーム政策提言発表	同志社大学恵道館201番教室	9チーム(発表13分+質疑・移動3分) 休憩10分
	12:20 ～ 13:10	昼食(各自)		昼食は各自で用意
	13:10 ～ 15:30	政策提言発表	同志社大学恵道館201番教室	8チーム(発表13分+質疑・移動3分) 休憩10分
	16:00 ～ 16:30	審査発表・講評・表彰式	同志社大学恵道館201番教室	
	16:30	閉会・解散	同志社大学恵道館201番教室	
3 日 目	16:40 ～	新田辺駅前へのシャトルバス(乗車自由)	送迎場所＝新田辺駅西口	バス：みどり1号、みどり2号

参加者数等一覧

○参加大学及びチーム数 (五十音順)

参加大学	チーム数
埼玉大学	1 チーム
摂南大学	2 チーム
大東文化大学	1 チーム
同志社大学	5 チーム
同志社女子大学	2 チーム
日本大学	2 チーム
福知山公立大学	2 チーム
立教大学	1 チーム
龍谷大学	1 チーム

9 大学	1 7 チーム
------	---------

○参加学生数、教員等数

学生数	教員等数
1 1 4 人	9 人

審査員・審査結果

(敬称略・順不同)

◎ 審査員

審査委員長 片木 孝治 (株)応用芸術研究所 所長

審査委員 丸山 武志 (株)日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 シニアマネージャー

河内 弘安 まちづくり市民ねっと京田辺 会長

田中 優 大阪国際大学グローバルビジネス学部 教授

鞍掛 孝 京田辺市 副市長

◎ 審査結果

賞	チーム名、テーマ
最優秀賞	同志社大学真山ゼミ B チーム 「健康増進に着目したまちづくりについて」
優秀賞	日本大学福島ゼミナール B チーム 「若い世代が起業しやすい環境づくりについて」
NPO 法人政策マネジメント研究所賞	大東文化大学藤井ゼミ 「市民への効果的な行政PRについて」
今川晃記念賞	福知山公立大学杉岡ゼミ 3 回生 「健康増進に着目したまちづくりについて」

最優秀賞及び優秀賞チーム集合写真

最優秀賞

同志社大学真山ゼミ B チーム



優秀賞

日本大学福島ゼミナール B チーム



第12回全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺 政策提言(発表順)

順番	大学名	チーム名	テーマ	備考
1	日本大学	福島ゼミナールBチーム	若い世代が起業しやすい環境づくりについて	優秀賞
2	同志社大学	真山ゼミCチーム	みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて	
3	立教大学	外山ゼミナール	みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて	
4	埼玉大学	斎藤ゼミナール	健康増進に着目したまちづくりについて	
5	同志社大学	真山ゼミAチーム	市民への効果的な行政 PR について	
6	同志社女子大学	まちづくり委員会Aチーム	健康増進に着目したまちづくりについて	
7	日本大学	福島ゼミナールAチーム	みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて	
8	同志社大学	政策学部真山ゼミD班	若い世代が起業しやすい環境づくりについて	
9	大東文化大学	藤井ゼミ	市民への効果的な行政 PR について	NPO法人政策マネジメント研究所賞
10	福知山公立大学	杉岡ゼミ3回生	健康増進に着目したまちづくりについて	今川晃記念賞
11	福知山公立大学	杉岡ゼミ	若い世代が起業しやすい環境づくりについて	
12	龍谷大学	政策学部今里ゼミ	市民への効果的な行政 PR について	
13	同志社大学	真山ゼミBチーム	健康増進に着目したまちづくりについて	最優秀賞
14	摂南大学	増田ゼミAチーム	市民への効果的な行政 PR について	
15	同志社女子大学	まちづくり委員会Bチーム	健康増進に着目したまちづくりについて	
16	同志社大学	今川ゼミ	市民への効果的な行政 PR について	
17	摂南大学	増田ゼミBチーム	市民への効果的な行政 PR について	

学生による政策提言発表



発表 No.1

●テーマ 若い世代が起業しやすい環境づくりについて

●大学・チーム名 日本大学福島ゼミナール B チーム

●チーム紹介コメント

皆さんこんにちは。私達日本大学法学部福島ゼミナール B チームは、「常に楽しもう」をモットーに活動してきました。班のみんなは話をするのが大好きで、会議中でも笑いが絶えることがありませんでした。今日はそんなみんなで作り上げた集大成をお見せしたいと思います。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

KYOTANABE PRESIDENT ACADEMY

日本大学 福島ゼミナール B チーム

起業の定義

起業とは「新しい事業を始める」ことだけでなく「新しい事業を展開する」ことでもある。したがって、今回はゼロから新しい事業を立ち上げることに加え、既存の企業を引き継ぎ、そこから事業を広げていくことも起業の定義とした。

現状・課題

- ・現在、京田辺市の既存の企業数は減少している。その原因としては、全国的に見ても後継ぎがいらないため事業が続けられないことによる休解散が増えていることが考えられる。これは実際に行った京田辺市でのヒアリングでも深刻な問題として挙げられている。
- ・若い世代が起業をしない理由としては、経営知識の習得やノウハウの不足、起業への不安の2つがおおきな理由として挙げられる。もし京田辺市で起業が減り続ければ、企業が減り、それによって雇用も減り、市民の流出につながる。そして、市民の流出によってさらに企業が減るという負のスパイラルに陥ってしまう。

政策提言「KYOTANABE PRESIDENT ACADEMY」

目的：上記の負のスパイラルや、起業する際の障害を取り払うため。

内容：実際に地元企業の社長の下で働くことで経営感覚を学ぶことができ、社長自身の思いなどを自ら感じることができるという政策。これは3つの要素から成り立つ。

【①起望シートの作成】

起業の「起」と、希望の「望」を組み合わせた造語である。既存企業と起業希望者を結びつけるマッチングの手段。起業希望者には、どのような分野で起業したいか、将来どの分野で何を発展させたいかを記入してもらう。

【②グリーンミーティング】

D-egg などの市内の施設で既存の企業と起業希望者がマッチング相手を探すというもの。日時を決めて継続して行うことで両者を結びつきやすくする。

【③プレジデントスタディ】

実際に社長のもとで働くというもの。短期間で企業の雰囲気や仕事体験を中心に行う既存のインターンシップとは異なり、主に企業理念や経営面のノウハウを学ぶことができる。これにより、普段のインターンシップよりもより経営面での体験ができる。

各アクターのメリット

【起業者のメリット】

- ① 机上の学習ではなく肌で経営を学べる
- ② 起業に関するイメージをプラスにさせることができる
- ③ 事業承継の機会に恵まれる

【会社のメリット】

- ① 新しいアイデアが創出できる
- ② 企業のPRができる
- ③ 次世代の担い手の創出ができる

【京田辺市のメリット】

- ① 地域の企業数が維持できる
- ② 雇用機会の創出ができる
- ③ 税収が維持できる

政策による効果

起業を促進することで京田辺市には2つの効果が期待できる。まず新しい企業の増加である。起業をしやすいすることで企業数を増やすことができる。さらに、企業の次世代へのバトタッチも見込める。そのため、事業継承で困っている市内業者の問題も解決できる。



行政がマッチングを行う、既存企業が受け入れる体制を作る、起業希望者が参加する、という協働の下にこの政策が成り立つことで、様々な世代が起業できる地、つまり起業の聖地（メッカ）として京田辺市はさらに発展していく。

発表 No.2

●テ　　ー　　マ　　みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて

●大学・チーム名　　同志社大学真山ゼミ C チーム

●チーム紹介コメント

私たちは男子1人、女子7人のチームです。

集まって取り組みをしている時はいつも休憩にお菓子を買って行っておしゃべりをしながらゆっくりするマイペースなチームです。そんなマイペースな C チームですが、話し合いを何度も重ね、みんなで案を出し合いコツコツ頑張ってきました。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

MM で変える京田辺の未来

同志社大学 真山ゼミ C チーム

全国的にみた地域公共交通の現状

私たちが生活をする中で移動手段として利用するバスや鉄道等の公共交通は近年、都市の郊外化によるモータリゼーション化、人口減少、高齢化などによって公共交通の収益は減少し、運転手は不足、本数が減るなどのサービスの低下が起こるという負のスパイラルを引き起こしている。

京田辺市の地域公共交通を取り巻く環境

全国で公共交通の路線廃止が加速する中、京田辺市の利用率は全国的には高く、40代層の生産年齢人口が多く若いまちである。

また、運行負担金路線という路線は市が経費の一部を負担し、福祉施設や市役所、各集落を結んでいる。市からの負担金によって収益率を60～80%に底上げしているが財政難である今、持続的に負担していくことが困難。

そして路線網が充実しているにも関わらず特にバスの利用率は、平成28年度3月に調査された近畿コンパクトシティガイダンスによると自動車が、35%の利用率に対し、約2%と利用が促進されていないことが分かる。

課題

上記の事から京田辺市は

- ① 現存する路線の収益が低く赤字路線であること
 - ② 公共交通サービス水準の向上
 - ③ 40代層が高齢層にシフトした時、公共交通を利用しやすくする環境づくり
- この3点が主な課題として挙げられる。

私たちは一人ひとりの移動が社会的にも個人的にも望ましい方向へと相乗効果をもたらすモビリティ・マネジメント(MM)という交通政策を用いて提言を行う。

政策提言

『タブレット MM』

タブレット MM の仕組み

バスの入り口付近にタブレットを 1 台につき 5 台ほど設置する。

そしてこのタブレットを用いたサービスを提供することでバスに乗ることに必然性を持たせる。このサイクルを生み出すことで自発的に利用者が公共交通を利用してくれると考えた。

提供するサービス

① 問診票記入アプリ

→タブレットに問診票アプリを導入し、選択式の項目をタッチペンで選択する簡単な操作方法にすることでどの世代でも利用しやすい。病院に内容が送信されると予約が完了となり、待ち時間が短縮されるといったメリットがある。

② スーパーの広告を閲覧、クーポン券獲得できるアプリ

広告を掲載し、閲覧画面にある QR コードを読み取り、クーポンを獲得できる等利用者がお得に感じる特典を付ける。

③ 京田辺市の広報やイベントの写真を掲載するアプリ

「広報ほっと京たなべ」といった市民だよりや地域のイベントでの写真をまとめ、地域の状況を把握できるようにし、写真や情報を通してコミュニティの拡大を目指す。

政策効果・将来展望

タブレット MM による政策を今から導入し、浸透させることで 10 年後、20 年後 40 代層がシフトした際の将来に備え、持続的なサービスの提供を実現できる。このサービス提供により、利用者は「また乗りたい」と思う機会が増え、生活の利便性も向上し、収益が上がることで、現存する路線バスの維持を可能にすると考えた。このようにサービスの質を向上させることで持続可能な地域公共交通を目指す正のサイクルを生み出すことがねらい。

発表 No.3

●テ　　ー　　マ　　みんなで育てる持続可能な地域交通システムによるまちづくりについて

●大学・チーム名　　立教大学外山ゼミナール

●チーム紹介コメント

私たちのチームは4年生1名、3年生1名、2年生2名からなるチームで、普段は各学年ごとに活動を行っていますが、自分たちの学びを形にしたいという思いから学年の枠を超えて集まり、今回のフォーラムに参加することになりました。この3日間を通して、自分たちの思いをしっかりと形にできるよう、精一杯頑張ります。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

京田辺トラフィックオアシス計画

立教大学外山ゼミナール 北澤翔一郎 鶴田真菜 吉田和真 佐野研悟

〈問題提起〉

京田辺市内ではバス路線の縮退や乗務員の減少などが原因で、公共交通機関が最大限に機能されていないのが現状である。現在市内の公共交通の中心は JR 京田辺駅、近鉄新田辺駅が置かれている中部地域になっている。鉄道のみならず、バス路線に関してもこの 2 駅をターミナルとして北部地域、南部地域と結ぶ形でネットワークが形成されている。しかし、近鉄新田辺駅でのヒアリングの結果、1 日の乗降客数は 2014 年度が約 25000 人だったのに対し、最新のデータでは約 20000 人に減ったということがわかった。比較対象として市内第 2 の駅である JR 松井山手駅で同じくヒアリングを行ったところ、約 13700 人→約 15000 人に増えていることがわかった。この松井山手駅の置かれている北部地域はここ最近大規模な土地開発や戸建ての分譲が進んでおり、今後も人口増加が見込まれる地域である。さらに、鉄道だけでなく松井山手駅のすぐ近くには第二京阪道路の京田辺 PA があり、北陸新幹線の延伸に伴い松井山手駅付近に新駅が建設されることもほぼ決定されている。つまり、この北部地域はこれからの京田辺市の交通拠点となりうるポテンシャルを十分兼ね備え、この北部地域を発着点とした持続可能な公共交通システムの構築を考えることにした。

〈提言名称〉京田辺トラフィックオアシス計画

〈内容〉ウェルカムゲートと電動シェアサイクルの設置

①ウェルカムゲート

現在、京田辺 PA は一般道からのアクセスを高速バス利用者の徒歩での入場のみとしており、車やバスでの出入りは不可能となっている。しかし、PA の周りには家電量販店や複合施設が既に営業しており、ホテル兼スパや大型商業施設も建設中である。これらの施設と高速道路を繋ぐことができればさらなる人口増加や観光客の誘致にも期待が持てる。そこで、PA から一般道に向けて新たに接続道路を設置し、一般道と高速道路を繋ぐゲート(ウェルカムゲート)を建設する。

②電動シェアサイクル

松井山手駅と京田辺・新田辺駅間の直線距離はおよそ 5 キロ程度で自転車でのアクセスも可能な距離になっている。東京都や幾つかの企業は既にシェアサイクルの実験・運用を進めており、CO2 の削減やエココンパクトシティの実現も期待できる。さらに、道路の狭い箇所が多い京田辺市には車社会に頼らない交通システムも必要となってくる。

ただ、懸念事項として京田辺市は坂が多いというのも特徴であり、そのような環境下で自転車を運転するのは困難なケースが発生することが予想される。そこで私たちは電動のシェアサイクルを考えた。電動にすることでお年寄りや筋力に自信のない方も使用してもらえ考えた。具体的には松井山手駅、大住駅、京田辺駅、新田辺駅などにサイクルポートを置き、サイクルポート内であれば返却の場所は問わない。ゆくゆくは一休寺などの観光地にも設置し、観光客が市内をサイクリングするような形で利用できれば可能性は無限大になると考える。

この①、②を行うことで元々兼ね備えていた北部地域のポテンシャルを最大限に発揮し、持続可能な公共交通システムを構築できると考えた。

名称の由来としては、PA・SA とそれに隣接する公園や商業施設を合わせてハイウェイオアシスとして運用されているものを活用し、付近の商業施設のみならず、市内の公共交通の新拠点という意味もふまえてトラフィックオアシスと名付けた。

〈実現までの計画〉

シェアサイクル→3 カ年計画

2018	住民会議・実行委員会の立ち上げ 資金調達・京田辺PA活性化計画策定（議会の承認）
2019	実験
2020	本格的導入

ウェルカムゲート→長期（9 カ年）計画

2018	住民会議・実行委員会の立ち上げ
2019	現地調査
2020	京田辺PA活性化計画策定（議会の承認）
2021	周辺商業施設との協議
2022	NEXCO・国土交通省との協議
2023	資金調達
2024	工事開始
2025	試験運用
2026	評価・検討
2027	運用開始

その後新幹線全通に向けスマート IC の導入検討などを行う。

発表 No.4

●テーマ 健康増進に着目したまちづくりについて

●大学・チーム名 埼玉大学斎藤ゼミナール

●チーム紹介コメント

こんにちは。埼玉大学斎藤ゼミです。

私達は3年生・2年生それぞれ12名ずつ、計24名で活動しています。

今回はその中から代表の5名が参加しています。

わたしたちは政策作成にあたり、「根拠のある政策」を念頭に置いて、そのためのデータ収集に力を入れています。

今回は2年生のみで初めて行う政策提言なので、活動や話し合いはいままでより思うようにいきませんでした。力を合わせて準備してきました。

よろしくお願いします。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

献立アプリでヘルスプロモーション

埼玉大学斎藤ゼミナール

(小川・大森・鈴木・中山・細井)

I・課題設定

2012～2021年にわたって行われている「健康増進計画・食育推進計画」の中間報告書から、京田辺市では、日本全体を基準とした腎臓病による「腎不全」の標準化死亡比が非常に大きく、京都府全体に対しても非常に大きいことが判明した。

腎臓病は症状が進行すると、「人工透析治療」を継続的に受けなければならない。私達は、この長期的な治療が患者に経済的負担を強いるだけでなく、市の財政にも影響を及ぼすと考え、「福祉医療助成制度」に基づく人工透析費の助成件数・助成総額・件数の対人口比、さらに人口推移予測から将来の助成件数・助成総額を予測した。すると、2020年には助成件数は970件を超え、助成総額は4億円を超えた。このことから、人口が増加傾向にある京田辺市では、今後継続的に4億円を超える財政負担を強いられると言える。そこで私達は、腎臓病患者の減少を課題とした政策を提言することとなった。

II・方針

腎臓病は「サイレントキラー」という別名の通り自覚症状があまりないため、予防と定期的な健診が必要となる。健診はすでに行われているため、私たちは予防に重点を置くこととした。

腎臓病の原因は内臓脂肪の蓄積であり、さらにそれは生活習慣病を招くことも判明した。そこで、内臓脂肪蓄積を防ぐことは、腎臓病だけでなく生活習慣病の予防にもつながるという効率性の面から、食生活を改善することを政策の方針とした。

III・提言政策：献立アプリでヘルスプロモーション

①政策概要

- 目的→バランスのいい食事による腎臓病予防
- 手段→献立アプリによる食生活改善
- 主体→京田辺市・市民ボランティア
- 対象→京田辺市民・市内飲食店

②政策内容

一週間分の夕食の献立パターンを、利用者が自由に組み合わせて付属のカレンダーに落としていくアプリを作成・配信する。各献立に必要な材料とその費用、レシピを掲載し、それをカレンダーにすることで、買い物や調理の長期的な見通しを提供する。献立は厚生省の定める一日の栄養摂取基準に基づいたものとし、さらに腎臓病患者に対

しては治療用、さらに制限を加えた献立を作成し別途掲載する。これによって、献立を日々考える煩雑さを解消しつつ、食事を改善する。また、市内飲食店は栄養摂取基準に基づいたメニューを開発し、専門家による評価・認定を受けたメニューをアプリに掲載し、朝昼の外食にも健康的な食事を普及させる。

③なぜ夕食か

朝昼晩三食バランスの取れた食事をとることが理想であるが、現代の日本人の生活リズムにおいて時間的にそれは困難であるため、一日のトータルバランスという観点に変換し、朝昼で乱れたバランスを夕食で調整する。また、就寝前の過度な栄養摂取は最も脂肪蓄積に影響を及ぼすため、夕食をバランスの取れた食事にすることでそれを防ぐことが出来る。さらに、家族がそろって食事するのは夕食が一般的であるため、家族全員が実施しやすくなる。

④既存事業との共同

現行の京田辺健幸パスポート事業のポイント付与制度と共同して、市民が自ら献立を作成した場合にもポイントを付与することとする。これによってアプリ自体の利用促進を図る。

⑤副次的な経済効果

厚労省の定める一日の野菜摂取量に対する現在の不足分70g（≒トマト1/2個）を、本政策によって補うことが出来れば、その分、野菜消費量が増加し、年間およそ1億2,000万円の経済効果が期待できる。

IV・まとめ

アプリという個別具体的なツールを使用することによって、市民は自分の健康状態・ライフスタイル・好みに合致した献立予定を立てることが可能になり、「自主的」な健康づくりにつながると言える。市民の健康づくりへの自助努力を促し、行政はそれを「献立アプリ」で支援する、これは京田辺市の掲げる「ヘルスプロモーション」に基づく健康づくりに大きく貢献する政策ではないだろうか。